

学校教育目標

『心豊かに ともに 伸びる』

☆ 仲間とともに伸びる

☆ 教師とともに伸びる

☆ 保護者・地域とともに伸びる

豊かな心：感謝する心、感動する心、思いやりの心、素直な心、不屈の心 等

学校スローガン

☆ 学校は「楽しい」ところ

☆ 学校は「学ぶ」ところ

☆ 学校は「鍛える」ところ

<令和4年度指導方針キーワード>

『熱血指導』・・・熱く語り、本気で向き合い、根気強く支援する。

☆ 生活スローガン 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」

☆ 人権スローガン 「クラスの平和こそが世界平和の第一歩」

☆ 部活動スローガン 「よき選手である前によき中学生であれ」

1 令和4年度教育の重点項目と具体的方策

(1) 不登校対策の拡充

(2) 学力の向上

(3) 心の教育の推進

(4) 地域とともにある学校づくりの推進

(1) 不登校対策の拡充

- ・ 「心と体のアンケート」により生徒の内面を可視化することで、心の不調の早期発見を図る。その上で、S Cと協同するなどしながら早期対応を図ることで不登校等の未然防止に繋げる。
- ・ 教育相談員、すずらん支援員等の活用により別室・保健室登校の生徒支援を充実させ、教室復帰に繋げる。
- ・ S S W、教育相談員等の活用及び福祉サイドとの連携を図りながら、支援を必要とする家庭へのサポートを行う。
- ・ Q-Uテスト等を活用するなどして、支持的風土のある集団づくりを推進することにより、不登校の未然防止や円滑な教室復帰に繋げる。
- ・ 「出番」「役割」「承認」を意識した学級経営、教科経営の推進により、生徒の意欲や活力の増進を図る。
- ・ 各種アンケートを有効活用しながらより実効性のある教育相談を実施し、支援の充実に資する。

(2) 学力の向上

- ・ 「嬉野メソッド」の5項目（①「めあて」をつかむ ②学習の方向性をつかむ ③自分で考える ④友だちと考えを伝え合う ⑤めあてに戻りまとめる）を柱とした、わかる授業づくりを推進する。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた授業の工夫改善を行い、自ら学ぶ生徒の育成を図る。

- ・ 定期テストの代わりに単元テストをこまめに行うことで、確実な学力の定着を図るとともに、小学校からの接続を円滑に進める。
- ・ 小中連携(ろく・さんプラン)の推進により9カ年の系統的な学びを推進する。
- ・ タブレット等のICTの利活用を図りながら、生徒主体の学びを推進する。
- ・ 長期休業中や放課後における授業(放課後学習会)、感染症対応による自宅待機生徒へのオンライン授業等により、多様な学習機会を提供する。
- ・ 新聞を活用した教育活動(全校朝新聞・スピーチ等)を工夫し、学力向上に繋げる(NIE教育研究指定校)

(3) 心の教育の推進

- ・ 大きな声と笑顔で挨拶や返事をし、素直な心を忘れず、生涯にわたって誰からも親しまれる生徒を育成する。
- ・ 道徳の時間を核としながら教育活動全体で心の教育の推進を図る。
- ・ 無言掃除を徹底し、協力することや責任を持つことの大切さを実感させることで、協働の精神を育む。
- ・ 職場体験やボランティア活動等の体験学習により、市民としての自覚を持たせ、望ましい勤労観を育むなどキャリア教育の充実を図る。
- ・ 総合の時間を中心とする郷土学習等により、ふるさとを誇りに思う心や郷土愛を育む。
- ・ 部活動や学校行事等を通して達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の気持ちを醸成する。

(4) 地域とともにある学校づくり

- ・ 学校運営協議会を核としながら、地域ぐるみでの学校づくりを推進する。
- ・ ゲストティーチャー等の地域人材、塩田宿等の教育資源を活用した学習活動を推進する。
- ・ 学校だよりやホームページ等により情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進する。
- ・ ボランティア活動等による地域貢献に努めることにより、地域との双方向の連携を充実させる。
- ・ 全職員が地域との協働の意識を常に高く保ち、積極的に地域に出向くことで信頼関係を構築する。

2 学校経営の基本方針

(1) 確かな学力の育成(知)

- ・ 各種研修の充実により教職員の資質向上を図り、確かな学力を育成する。
- ・ 学習状況調査結果を基に、課題解決のための指導方法等の工夫改善を積極的に推進する。その際、学力向上対策評価シートを活用しPDCAサイクルを機能させる。
- ・ 少人数指導やTT指導などきめ細やかな指導方法の工夫改善を推進する。
- ・ 学校評価の課題と、人事評価システムにおける個人の課題を関連づけ教職員個々の資質を向上させる。
- ・ 長期休業中や放課後における授業(放課後学習会)、感染症対応による自宅待機生徒へのオンライン授業等、多様な学習機会を保障する。また、コンクール等への応募にも積極的に取り組む。
- ・ 時間前着席、学習用具の準備、グループ学習のルール遵守等の学習規律の徹底に

より落ち着いて学べる学習環境づくりを推進する。

- ・ タブレット活用のスキルを高めるなどして、ICT利活用教育を推進する。
- ・ 適切な質・量の宿題を提供するなどして、家庭学習習慣の定着を図る。

(2) 豊かな心を育む教育の推進（徳）

- ・ 道德教育を中核としながら、教育活動全般を通して豊かな心を育む。
- ・ 年間指導計画に基づき人権・同和教育を推進し、いじめや差別を許さない集団づくりを推進する。
- ・ Q-Uテストの分析などによりクラスの実情を把握し、課題改善のためのグループエンカウンター等により、支持的風土に満ちた集団づくりを推進する。
- ・ 文化芸術の巡回公演により生の芸術を体感させることで、情操面の育成を図る。
- ・ 生徒会活動と連携しながら、挨拶運動や校則改定など自治的集団づくりを推進することで、自主性や愛校心を育む。
- ・ 塩田宿、志田焼の里博物館等の教育資源を活用し、体験活動等を系統的に仕組むことで、郷土愛を育む。
- ・ 職場体験、ゲストティーチャー、ボランティア活動により、地域の方とふれあうことなどを通して、市民としての自覚を持たせ地域への貢献意欲を喚起させる。

(3) 心身の健康増進並びに安心安全な生活（体）

- ・ 検温、消毒、マスク着用等の徹底により感染症対策に万全を期す。
- ・ 生活アンケートの適切な運用や教育相談の充実等により、いじめなどの問題への早期発見・対応を図る。
- ・ 自転車の乗車マナーを中心とした交通安全指導を徹底する。
- ・ 防煙教室、薬物乱用防止教室、DV予防教室など、その都度適材な講師を選定し健康教育の充実を図る。
- ・ 「心と体のアンケート」により生徒の内面を可視化することで、心理的な負荷の状態を早期に発見・対応し不登校等の未然防止に繋げる。
- ・ 豪雨時に保護者への引き渡しができるよう、事前のリハーサルを行う。
- ・ 「生きる力の教科書」を活用し、悪徳商法や情報モラルに等に関する知識を習得させることで、将来にわたって犯罪に巻き込まれることのないよう予防に資する。

(4) 教育環境等の整備

- ・ 病弱対応の特別支援学級新設並びに、情緒対応の特別支援学級1クラス増加に伴い2教室を増築し、環境整備を図る。
- ・ 復帰教室「すずらん」、適応指導教室「あさがお」等における支援を充実させ、教室復帰に向けた生徒支援の環境整備を図る。
- ・ SSW、SC、すずらん支援員、教育相談等の人的資源を活用し、不登校生徒等へのより実効性のある支援を行う。
- ・ 「心と体のアンケート」をタブレット活用によりデータ化することで、生徒の内面を可視化するシステムを構築する。
- ・ 自動検温器、水道蛇口の自動水栓への切り替え等により、感染症対策のための環境を整備する。
- ・ 感染症対応による自宅待機生徒に対し、オンライン授業を実施する。
- ・ 保育園、小学校、高校、地域の関係有識者を委員とする学校運営協議会を核としながら、地域ぐるみの学校教育を推進する。
- ・ 二学期制によるゆとりある教育を推進する。

